

国際系航海学習(2次:10月20日～29日)を終えて

関口

私は、この航海が始まるまえに、協調性と忍耐力を鍛えるという目標を立ててこの航海に望みました。

まず、協調性という部分では、みんなの目標「団結するまで下船せず」と同じような意味だなと思ったので、1人の目標というよりみんなの目標でもあったのかなと思いました。そのため、みんなで協力して物事に取り組めるようになったと思います。しかし、協調性がすぐに身についたわけではありません。最初の頃は、みんなで声掛けできず食事のときは食当班に任せっきりで協調性などどこにもありませんでした。それでも航海を重ねていくにつれて、船員さんや、乗船教官に注意されて成長していった部分もありますが、何といても1番は、棒ずりでみんなが団結するために声をだしたことが大きかったと思います。棒ずりをおえてからは急に団結力があがりました。

2つ目は、忍耐力という部分で、これから生きていくためにも必要だと思います。私はすぐに妥協してしまうので酔ってどんなに辛くても自分の役割はしっかり果たそうとしましたが、そんなにあまくはありませんでした。しかし、自分の役割は妥協せずできたので後悔はありません。

この航海で100どちらもできたとは思いません。しかし、成長の糧にはなったのでよかったです。この乗船で学んだことを生かしていきたいです。

高口

10日間の乗船を終えて、最初の目標であった「団結するまで下船せず」は誰の目から見ても達成できたと胸を張って言えると思います。それは、誰かのおかげではなく全員がその目標を達成しようと努力し行動に移した結果です。

私の乗船式の挨拶から始まった二次乗船は最初、団結という言葉には程遠い集団でした。お互いに顔を見合わせれば、なにかと言合いになり、協調性がなかったのも同じミスは何度も繰り返し、怒られました。さらに、積極性もなく失敗を恐れている人が多かったのも、何かを始めるまでが長く教官や船員さんには何度も注意を受けました。しかし、「団結するまで下船せず」という目標を全員で決めてからは、お互いに声をかけるようになり、協調性や積極性も出てきたので、小さなミスやぶつかり合いが減り、ようやく団結という言葉が見え始めてきました。さらに、日を重ねるごとに問題点が増えたので、それを一つ一つ全員で話し合いつぶしていきました。途中、話がずれて教官に怒られる場面もありましたが、問題点をつぶすことにより、よりお互いに助け合い、一つ一つの行動の質が高まっていきました。特に、みんなが酔っているときは、自分の仕事ではないことでも積極的にやる人が多く、最後の数日間には特に団結力が高まったと言えます。

正直、乗船前はこんなメンバーでは、団結は無理だと思っていましたが、数々の問題や試練を乗り越えることにより、こんなにも全員を思いやり、協力ができることに感動しました。

中田

今回の航海は学ぶことが多かった。乗船式で、生徒代表の高口が団結することを目標にと言っていた。今までの国際系のクラスは、ばらばらで自分勝手に動き、先生の話は聞くことが出来なかった。そのような状況だったので航海実習を通してまとまりをもちたいという気持ちでいた。団結するためにどうすればいいか、全員で考えホワイトボードに書いたりして、声掛けや仕事の引継ぎを特に頑張った。失敗もよくした。仕事が引き継げておらず、ワッチで作業がうまくいかなかった。しかし、その度に反省会をやり、改善していった。乗船式で国際系だからと言われたくないと高口は言っていた。そのために、今まで国際系でやってこなかった時間帯のワッチもやった。やら

ないかもと言っていた位置入れもした。やれることはやったと思っている。団結するには、ほかの人への思いやりも必要だと思い、言葉遣いにも気をつけた。酔いでつらそうな人に声をかけたりもした。お互いに声を掛け合ったりしているうちに、学校生活では見られない良い一面もみられた。いつもと違う一面を見られたのも乗船のおかげであると思うので良かった。乗船する前の自分たちのままだったら、この十日間の航海は耐えられなかったと思う。小笠原にいけなくなったと決まった後に、すぐ気持ちの切り替えができたのがよかったと思う。日経つにつれ、ワッチの時間が短く感じるようになっていた。一日一日が充実していたからであり楽しかったからでもある。できる仕事が増えていくのが楽しかった。楽しかったと思えたのは、この十日間で全員がまとまりを持ち団結ができたからだと思う。この経験をうまく生かすことが今の国際系クラスの課題だと思う。

原武

2年生の乗船実習を終えて、自分の中で宣言通り意味のある10日間の乗船になったと思います。

今回、基礎航海ではやったことのないログブック、気象通報、位置入れの記入をはじめとした航海当直という新しい仕事を行い、最初は酔いと緊張でうまくいかなかったり、慣れない仕事に苦戦する部分もあり、たくさんの注意を受けました。しかし、途中から酔いにも慣れ、自分がこの仕事をやらなければいけないと言う責任感を持つようになり、航海当直の仕事に楽しさを感じるようになりました。また、4時間のワッチの重要性、たくさんの知識を身につけることができました。

クラスの団結も強くなったと思います。特に感じたのは、棒ゼリの時です。皆で声をそろえて出す機会がほとんどなく、最初はうまくいかなかったけれど、皆がそろったとき、団結力を感じると共に団結することの楽しさを2年生になって、初めて感じることができました。

今回の乗船実習では、船内での仕事の大切さ、知識を学び船内仕事の楽しさを学ぶと共に、船員さんたちへの感謝の気持ちを改めて感じました。私たちと一緒に仕事を行ってくださり、乗船をさせてくださった船員さんたち、教官の先生方、本当にありがとうございました。

今回の乗船で身につけたこと、失敗もこれからの経験とし、自分の将来の夢に向かって、精一杯頑張っていきたいです。改めて、自分の夢を再確認できた乗船でした。

福嶋

自分は航海実習に行くのが不安で仕方ありませんでした。何故なら自分は何かをすると必ず人より遅れをとるからです。航海実習では周りと合わせる事が重要な上、目標が団結力を高めることと決まったのでなおさら恐怖でした。実際最初は迷惑のかけどおしで、ある時には「こんな思いをするなら乗船なんてしなければよかった。いっそのことケガでもして降りてしまいたい。」と思ったことすらありました。しかしその考えこそが次の行動を遅くする一因になっていたと気付いたのはだいぶ後でした。それに気付いてからは、「よし、何事もとにかく突き進んでみよう。考えるより行動だ。」と思い、色々なことにチャレンジしていきました。そのおかげで今は乗船する前よりはましになった（自信を持ってできるようになったとはまだ宣言できません）と自分では思っています。

もちろん乗船中楽しい思い出もあります。友人ともっと仲良くなったこと、何層にもなる虹を見たこと、中華街で変わったお土産を見たり、美味しい物を食べたこと、夜のワッチで満天の星空を見たこと、船員さんに褒められた事など、きっと乗船しなかったら得られなかったであろう体験をたくさんすることができました。楽しい事ばかりではなかったし、辛い事は多かったけれど、船員さんや教官、クラスメイト達のおかげで気持ちよく下船することができそうです。

二次航海の目標『団結するまで下船せず』ですが、自分は達成と言っているのではないかと思います。まだまだの部分はあるけれど、少なくとも乗船の前よりは団結力が高まったと思ってます。このメンバーで乗船し無事下船できることをうれしく思います。

自分が乗船前に掲げた目標は「酔う前に動く」という目標でした。しかし実際に乗船してみると自分が思っていたよりも揺れてこの目標と達成するのは難しかったと思います。そこで新しく掲げた目標は「酔った時こそ人一倍動く」という目標です。基礎航海では酔ったままトイレにずっとこもってしまい、班員に迷惑をかけてしまいました。そのため、今回の乗船ではトイレに入ったら二分以内に出て仕事に戻るということを心に決め頑張りました。この目標を達成したことで基礎航海よりは沢山働くことができました。それでも酔っていて動けないこともしばしばあり、そういう時にサポートしてくれた班員、励ましてくれた先生、船員さんにはとても感謝しています。

船酔いと戦い続ける十日間はとても辛かったです。しかしその分、今後生きていく中で問題に直面したとしてもこの乗船を乗り切れた自信をもとに様々なことにトライしていこうと思います。

また、乗船での自分たち二次航海の一番の目標は「団結力」でした。乗船初日の自分たちの団結力はほとんどゼロだったと思います。それが沢山の苦難を皆で乗り越えていくにつれて段々と団結力が高まったように感じました。乗船期間中のみの団結力ではなく、学校に戻ってもこの団結力を保てるよう、乗船中全員で行っていた「声かけ」、「協力」を忘れずに生活していこうと思います。

峰岸

この航海学習を終えて印象に残ったことが三つあります。

まず一つ目は、改めて知ったことですが、協力する、団結することの大切さです。この協力と団結が無ければこの航海は成り立たなかったと思います。ワッチや引継ぎはもちろん普段からでもお互いにわからない事やわかる事を、教え、教えてもらったり、食当や大掃除の時にも、係じゃない人が手伝っていました。協力してもらった時はとても助かりました。こうして協力すること、団結することの大切さを改めて認識しました。

二つ目は、ワッチです。とにかくとても疲れました。しかし、そのワッチで協力すること、自分の役割を果たすこと、操舵をすることなどを一生懸命やることによって、とてもやりがいがあり、達成感がありました。色々つまづいてばかりなところもありましたが、しっかりと、やるべきことをできたと思います。今後もしっかりと一つ一つのことを努力していきたいです。

三つ目は、神戸での自由行動です。小笠原の代わりに神戸に行って、自由行動できる時間がありました。須磨水族館に行ったり、建物を見学してその歴史を知ったり、中華街に行ったりなど、短い時間でしたが、初めての神戸でとても充実した時間を過ごすことが出来ました。よく見たら、建物や看板などに阪神淡路大震災の跡と思われるものを発見しました。本当にここで震災があったのだなと思いました。

十日間の航海が終わりました。最初の当直が言ったこの航海を意味のあるものにするということですが、とても意味のあるものになったと確信しました。普段経験のできないことを沢山することで、自分にとってとてもいいものになったと思います。この経験を生かし、今後の人生を生きようと思います。



吉田

二学年になって一学年の基礎航海と違う航海が十月二十日から十日間始まった。最初は不安と緊張があり、二次航海のメンバーでやっていけるかと思っていた。

最初にあったのは乗船式。前日指導で皆で一生懸命考えた宣言の言葉を高口が当日読んでくれた。船員や先生の前で代表して読むのはとても緊張することだったと思う。その後急いで着替えて食料とアルミ缶の積み込みがあって初めて皆との協力の作業だった。数を間違えたり、立ち位置がちがったりとやはりバラバラだった。

次の日から東京に向けて出発し、いよいよワッチなどの仕事が始まって覚えることが増えた。朝のラジオ体操では一回で出来ず、何回もやり直したのは、声かけや確認をしてなかったなどが反省

会ででた。次の日からは当直以外の人が声かけをし、事前に確認をしてやり直しが無いラジオ体操が行えた。「声が小さい」や「体をよく伸ばすこと」を注意されたら、直すようにした。一年間経って旗上げ、旗下げのやりかたを覚えていなくて、失敗を何回もしたけれど、その後にちゃんとできる様になった。ワッチでは国際系で初めての 24 時間ワッチで眠い時もあったが、位置入れや操舵、ログブック、気象通報、報告など覚えるがたくさんあったので忙しくも充実し、実になるものがたくさん得られた。その中で見た星も大島や東京でみられない量がみられてとても感動したし、光のない海で見られてよかった。

一番思い出に残ったのは船酔いだ。普通の高校生では体験できない船酔いは、本当に辛かった。最初と比べて慣れたが、これからは体験したいと思わない。



都立の高校生で乗船実習があるのはこの大島海洋国際高校だけだと思う。また今回は「団結するまで下船せず」が二次航海の目標だ。最初とは違って成長できた自分たちをこれからの学校生活で続けて行きたい。また一次乗船の人とあわせて二年 A 組として団結していきたい。小笠原には行けなくて神戸になったが、乗船できたことがよかった。

渡邊

約 10 日間の航海学習で小笠原に行くことになり、そこでイルカと一緒に泳げるドルフィンウォッチングもできることを初めて知ったときは楽しむことしか頭になく、舞い上がっていました。しかし、最初の説明の時に一発目の、机に物が置いてあるところから教官に怒られてしまい、基礎航海で味わったあの厳しさを思い出しました。しかし、実際に船に乗ってみて思ったことは、一年の時より厳しくないと思ったことです。これもあとから教官に聞いたら、自分たちはワッチとか気象観測のやり方などを何も知らない国際系だからだそうです。海洋系は海洋専門の授業を受けているからワッチなどはできて当たり前。なので、それなりに厳しくされるそうです。差があるのは仕方のないことだけど、そこで「国際系だから」と比べられるのはとてもいやだと思いました。なので、船の中では「国際系だけど」と言われないように決めた全体の目標が「団結するまで下船せず」でした。自分はさらに「ちゃんと反応すること」、「メモ帳を最後のページまで埋めること」の 2 つの目標を作って頑張りました。メモ帳は最後のページまで終わらなかったけれど、でも船員さんからたくさんの興味深いことを教えてもらうことができて、勉強になったし、とても楽しくて初めて海洋系に行けばよかったと思ったほどでした。また、船内での生活の仕方からも船員さんたちが毎日どれだけ節水しているかが伝わってきました。節水はもちろん、掃除の仕方、ロープワークは次使う人がすぐにほどこやすくするために、接岸作業など、操練のときやエンジンの冷却水が故障して機関長がけがをした時も何ひとつ慌てることなく冷静に対処出来ててすごいと思いました。

小笠原諸島には行けなくて代わりに神戸見学になったけど、それでもとても楽しい時間を過ごすことができました

この航海での思い出は絶対忘れません。

本当にありがとうございました。

永野

自分は、この乗船を通じて多くのことを学びました。この乗船は自分にとってつらいものでした。船の上での生活は朝早く、夜遅いこともあり、棒ずりなどの作業は身体的につらいものでした。ですが、この乗船は決して悪いものではありませんでした。自分がこの乗船を通じて学んだことの 1 つめは積極性でした。それは自分だけでなく、全員が感じたことだと思います。普段私たちは高校生活何かやるとなると誰かがやってくれるだろうと思ってしまいがちでした。ですが今回の乗船中で食事当番の際は自分から行動をしたり、航海当直の際は位置



入れやログブックも最初は率先してできなかったけれど最後は皆積極的にするようになりました。積極性は社会に出て重要なことはもちろんのことですが、自分は生活全体にとって重要な要素だと思います。例えば積極的な運動・積極的に野菜をとる食生活など体のために大切なことはたくさんあります。積極性にも様々なことがあります、どれも大事なことなので忘れないでいたいと思いました。また2つ目は協調性です。私たちは普段団結することなく自分勝手に生活してきました。ですが乗船を通じて食事当番でなくても手伝ったり、困ったら助け合いの精神が身につきました。それを今後の学校でも生かして充実させたいと思います。

瀧口

それは十月二十日、何事もないかのように始まった。乗船式の後もいまひとつ実感がわかないままだった。けれども自分の覚悟とは別に時間は進んでいった。それを実感したのは次の日だった。

父はみやこの機関長だ。そのみやこのUWの旗を見たとき、覚悟した。いや、覚悟させられた。いつも近くにいた父の背中をととても遠くに感じた。

初めてのワッチを終えたときのことはあまり覚えていない。状況の変化について行けず緊張感に押しつぶされた。船酔いのことなど頭の片隅にもなかった。

目が覚めると船は三崎に向かっていた。どうやら機関長が火傷をしたらしい。その時の自分は小笠原に行けるのだろうかということだけを心配していた。今振り返るとなんと愚かなのだろう。しかし、それでも、そのときの自分には大事なことだった。

三崎はとても良い所だった。将来ここに住みたいと思えるほどにゆっくりとした時間が流れていた。神戸に進路が変わったと聞いたのはその後だった。

次の日には船は神戸に向かい出港していた。自分は何というか抜け殻のようだったと思う。そんな自分には0～4のワッチはつらく重たいものだった。班員がとてがかっこよく見えた。自分の意識を変えるのには十分だった。

それ以降は充実した日々だった。いや充実していることに気づいていなかったかもしれない。棒ずり、オールハン、旗揚げ、旗下げ、そしてワッチ。がむしゃらに、でも楽しかった。神戸までは一瞬だった。

神戸には様々な景色があった。様々な文化があった。喫茶店で飲んだダージリンの味は忘れることはないだろう。

大島に向かう船の中、須磨海浜水族園で買った亀パンを食べた。やはり小笠原を忘れられなかった。ただ亀の形をしているだけであったがそれで満足だった。

波浮港に入港したときみやこに父が乗っているのが見えた。安心した。してしまった。父が少しだけかっこよく感じたから

柴田

私はこの乗船で団結するための個々の大切さについて考えさせられました。ここで言う個々とは旗たためるとか、難しい結び方ができるとか、ラジオ体操ができるとなどの能力のことではなく個人の意識のことを言います。団結するために必要なものは能力ではなく意識の問題で、この意識によって声掛けが生まれ、ミスが減っていくと考えています。

乗船前半では、みんななんとなく大きい声を出して声を掛け合っていました。その結果、

ラジオ体操をやり直しさせられたり、先生から同じ注意をされたりしていました。誰かのミスを感情的に注意してしまったり、自分の乗船をいいものにしようという意識しかなかったために団結できずにいました。

しかし、ワッチが始まり、みんな、個々がクラスの一員であり、実習生であることを自覚し始めると、自分たちの乗船をいいものにし、その先に団結、自分た



ちを昇華させるという意識が生まれ、本当の団結と言えるような声の掛け合いや、協力ができるようになっていきました。ラジオ体操が一度で終わるようになり、引継ぎの内容が深くなっていきました。本当の団結がようやくできるようになったのです。

この乗船での団結はこれで終わりではなく明日からの学校生活や、ドミトリ生活に生かしていき、周りの生徒や、先生方が変わったと思えるようにしていきたいです。

最後にこの乗船を実行するにあたり協力してくださった方々に感謝の意を示したいと思いますありがとうございました。

増子

私は十日間の乗船実習で、数多くの他では学べないことや、実感出来ることを体験できました。特に、国際系では初の二十四時間ワッチは、四時間連続で見張りを行うなど、今までにない過酷な仕事を任されました。この仕事は最初から緊張しっぱなしで、「声を出す」、「言われたことを繰り返さない」等、様々なことで怒られてしまいました。

自分だけでなく、周りの同じ班員も一緒に怒られることもありました。しかし、それらは失敗から学ぶということが一番実感させてくれました。他の人が怒られた内容を自分は繰り返さないようにすることを心がけて、自分が怒られた内容も他の人に引き継ぐなど、同じ過ちをしないように頑張りました。自分はこの乗船でたくさんの人から助けられました。船酔いで動けないときは他の班員に手伝ってもらい、当直や旗揚げなどの仕事でわからないことも教え合ってこの乗船を乗り切りました。

自分は改めて、この「助け合い」は「団結」に結びついていくんだなと感じました。

分からない事を聞くことは、当たり前のように恥ずかしい事だとずっと思っていました。しかし、船の上では一つのミスが命を落とすこともある中、「恥ずかしいから聞けない」などと言ってる場合ではなく、多くの知識が必要となる場所なのだと感じました。

その知識と皆の助け合いでミスを最小限に抑えていくことが、これから社会に出た時でも必要となっていくと思います。

最後に、この乗船実習では、辛い事、苦しい事が多々ありました。でも、それを支えてくれて多くのことを教え合い団結した仲間がいたことでこの航海の目的を達成できたと思います。

村松

今回の乗船実習でたくさんの事を学ぶことができました。

一つ目は、二次航海組で決めた「団結」です。

十月二十日はみんながバラバラで声掛けもできず、本当に団結できるのかなと不安でした。しかし二日目からワッチが始まり、いよいよ航海が始まるんだなと思い始めた時からバラバラだったみんなが少しずつだけ団結し始めたのかなと思います。具体的には、船酔いで潰れていた人がいたら、かわりに食当の手伝い、ワッチでは操舵などを団結し始めたのかなと思います。他には、朝当直がラジオ体操の確認を早起きしていた人と確かめ合ったり、四日目に機関長の件があり急に違う港に入港した時も掃除場所とか自分達が一回やったことのある場所をやって入港に向けて準備したりと少しずつ団結してきました。五日目にはみんなで反省会をし、言いたい事も言っていき、六日目から反省会の反省をいかせたと思います。その成果で、声を大きく出すようにしたり、積極的に動けるようになったり、声掛けをするようになりました。「団結するまで下船せず」の目標は達成できたと思います。

二つ目は乗船中の生活です。

ベットメイクからラジオ体操、掃除に、食事準備。航海中はワッチがあるなどめっちゃめっちゃ辛かったです。ワッチでは船酔いに負けた時もあり、とても悔しくて、でもワッチ三回目は船酔いもせず報告できて四回目あたりから位置入れなどもで



きるぐらい余裕になって嬉しかったです。八日目が自分はラストのワッチで一番楽しく、いろいろできました。

最後のワッチで星が見られて、本当に頑張ってきてよかったなと思いました。

この乗船で普通なら体験できないことができてよかったと思います。教官や船員さんから言われたことをこの先の人生にいかせるようにこれからも頑張ります。

本当にありがとうございました。

朝比奈

私が航海実習で学んだこと、気づかされたことは仲間や班員の大切さです。

私は自分の班員全員をあまり好きではありません、どちらかと言うと嫌いです。男子三人の中女子は自分一人で何かやると「朝比奈、お前なら出来るだろう。やって。」と何でも任され、出来ないと言うと「えっ？何で出来ないの？」みたいなことを言われ、すぐ暴言を吐かれ、いじられ、馬鹿にされ、とても嫌いです。何度も教官に班員を変えて欲しいとも頼んだくらいです。でもそんなにひどい班員達ですが、ワッチ中私が酔って厳しいときに気にかけてくれたり、何か失敗したときフォローしてくれたりなど自分が一番大変なとき、きついときにいつも助けてくれたのは他の誰でもない班員でした。本人達には死んでも言いたくありませんが、とても感謝しています。

他にも、班員に言われた言葉で傷ついた私をいつも励ましてくれた部屋員の二人、いつも頑張れと応援してくれた女子の皆、もうきつい、もう無理というとき支えてくれた教官、乗船中私の知らない沢山のことを教えてくれた船員の皆さん。全員に感謝しています。本当に有難うございました。

私が乗船前に書いた文には色々自分の駄目な所、頑張りたいことを書き、その後に変わりたい、出来るようになりたい、成長したい、などの事を書きました。乗船前の私と比べ、今の私は自分で言うのも何ですが、とても変わったし、成長したと思われます。これも仲間、班員、船員の皆さん、教官、そして乗船中の色々な試練のおかげだと思います。最後まで乗船できて、色々な試練、進路の変更や船酔い、癖の強い班員などを乗り越えられて良かったと思いました。

この乗船で気付かされた仲間、班員の大切さを忘れず、成長できたこの状態を前のひどい状態に戻さないよう気を付け生活していきたいと思います。

平塚

この乗船実習を終えた今、かなりの達成感が自分の中にあります。それは、この10日間の中で様々な出来事があったからだだと思います。特に印象に残っているのはワッチの仕事です。酔っていても他の班員のために少しでも動き、自分の役目を果たさなければならないことはとても大変なことでした。しかし、仕事を果たすことができなかった時もありました。そんな時、助けてくれたのはほかの班員でした。酔っていたとしても率先して働き、仕事を果たしてくれていました。その時のワッチは正直今までで一番つらかったです。

しかし、いつまでも人を頼るわけにもいきません。「団結するまで下船せず」それが今回の二次航海組全体での目標でした。この目標を思い出し、その後のワッチでは自分でも責任を持ち、役目を果たすことが出来ました。

今思えば、途中で進路が小笠原から神戸に変わったことを乗船実習後半は忘れていました。それは、上陸先で得られる経験よりも、航海中に得られる経験のほうがよっぽど大きなものだという気持ちがある自分の中にあっただろうと今では考えています。他の人と協力すること、自分自身が自覚して行動すること、様々なことをこの航海で学ぶことが出来ました。辛くもあり、楽しかったこの10日間を、今後の人生の糧としていきたいです。

最後に、冗談を混ぜながら自分たちに大切なことを教えてくださった船長、航海士の方々、美味しい料理を作ってくくださった司厨員の方々、優しくも時には厳しく接してくくださった船員さんの方々に感謝したいです。

今回乗船していろいろな事を学びました。1番大きかったのは予定通りいかないということです。自分達は最初小笠原に行く予定でした。しかし、行っている途中に機関長がけがをして東京に戻ることになりました。自分達だけではなく1次乗船の人達も小笠原にいけませんでした。なので、予定通りにはなかなかいかないことばかりだと感じました。しかし、そこで気持ちを下げるのではなく上げていく大切さを知りました。もし将来仕事を始めて予定通りにいかなくても気持ちを上げていこうと思いました。そうすれば今回のようにそのあとに何か良いことがあると思います。ほかにも負けないということです。自分は何回かのワッチであまり仕事を初日にしませんでした。しかし、そのあと次はしっかりやろうと思い、酔って仕事をしていたら酔いが治ったので自分にまけないということをもなびました。



自分は、今回の乗船で2つの言葉を信じていました。それは、「チャンスがやってくる人は準備ができている人だけ」と「成功するまではすべてが不可能に思える」という二つの言葉です。「チャンスがやってくる人は準備ができている人だけ」は「後まわしにしない」という言葉をかっこよく言っただけです。「成功するまではすべてが不可能に思える」は「無理と言わない」という言葉をかっこよく言っただけです。その2つの言葉はできたので今回の乗船は良いものにできたと思います。2つの言葉はこれからの人生の座右の銘にしたいです。